

## 定例教育委員会議（令和3年8月20日開催）における意見及び考え方

番号	意見	考え方
1	今後の小中学校及び幼稚園のあり方についての課題として、「教育の質の向上」を第1に記載すべきではないか。	ハード面、ソフト面とも重要な課題であると考えています。
2	課題についての記述において「・・・検討する必要があります。」という語尾が多用されているのが気になった。検討するだけなのか、また検討してどのように実施していくつもりなのか、ということが伝わらず、もどかしく感じる。組織として進むべき方向性を織り込んだものにできないのか。	語尾が「・・・検討する必要があります。」という表現となっているのは、今後検討委員会において議論を重ねる予定の課題について述べたものですので、あえてそのような表現にしています。
3	本市がこれまでやってきた整理統合の成果として教育内容が良くなったということ、地域住民や保護者のみならず他自治体でも周知すれば、阪南市の魅力の一つとなり、ここで学ばせたいと思わせることもできると思うので、ソフト面もよくわかるように審議していただきたい。	これまでの整理統合のソフト面を総括してみると教育内容が充実したことが分かった、という結果を今後保護者や市民へも発信していくことが重要だと考えます。 ソフト面についても、わかりやすい審議を心がけたいと考えています。

## 厚生文教常任委員会（令和3年10月29日開催）における意見及び考え方

番号	意見	考え方
4	現在、出生数でいえば月20人に満たない月があり、年間で200人になるのかならないのかという現状で、整理統合計画の策定に3年間もかけていると、話し合っているうちにずれが生じないのか不安がある。 また、検討事項が多く、全ての項目で「検討を進めていく必要があります。」という文末になっているが、「学校のあり方検討」という形だけで整備統合が本当に進めていけるのか不安である。	今後のスケジュールで「（仮称）阪南市立学校のあり方検討委員会」は令和4年から令和6年の間に、議論を重ねるとしています。 検討すべき項目がたくさんあるので、教育の内容や設備面など、課題ごとにいろいろと組み合わせながら、皆さんの声もしっかりと聞きつつ、一方では急ぎながら検討を進め、しっかりと組み立てていきたいので、この程度の期間は必要と考えています。
5	学校と地域ということもあるが、確かに地域のことでも大事だが、今回のことでは、やはり小中一貫や支援教育、少人数学級をどうしていくかなど、学校選択制まで視野に入っているということを見ると、整備統合とかという言葉ではなくて、今までの考え方を変えて、新しい阪南市の教育、幼小中の教育を考えるとという視点で考えていく必要がある。 阪南市として、残されたこの施設と子どもたちをどういうふうにしていくかというところに重点をおくべきで、整理統合により学校が減っただけみたいな結果にならないようにしていただきたい。 また、幼児教育については、これからますます人数が減っていく中で、希望の持てるような新しい学校のあり方みたいなものが提示できたらよい。 検討委員会のあり方はすごく大事だと思っているので、十分な検討をお願いしたい。	今後の整理統合は、平成18年の整理統合よりも一歩進んだ形で、阪南市の教育の形を明示するということが非常に大事なポイントであると考えています。 教育委員会が中心になって、その方針について決定したうえで進めていくもので、今後の阪南市の教育を確立できるような整理統合にしていこうと考えています。

総合教育会議（令和3年10月22日開催）における意見及び考え方

番号	意見	考え方
6	<p>学校のあり方を検討するにあたっては、学校の適正規模ということ念頭にやることになると思うが、1校における児童生徒の数だけを増やそうとするのではなく、そういった選択肢もあるということ踏まえてほしい。特認校、義務教育学校や小中一貫校といったものもある。</p>	<p>特認校、義務教育学校、小中一貫校については、検証報告書においても課題としている事項である。今後は、ソフト面も含めて「あり方検討委員会」に諮問し、出された答申に基づいて検討していくこととしています。</p>
7	<p>一つの小学校から一つの中学校への進学だと、複数の小学校の子どもが混ざらないことでの課題があるのではないかと。また、一つの小学校から複数の中学校へ進学することも避けていただきたい。</p>	<p>学校数についても、教育委員会や市議会の厚生文教常任委員会、本日の総合教育会議でいただいた意見を踏まえたうえで、あり方検討委員会において議論していきたいと考えています。</p>
8	<p>課題の一つとして「幼児教育の質の向上」が挙げられている。統合が進めば自宅や小学校からの距離は遠くなるが、良い点は残せるよう、検討していただきたい。</p>	<p>就学前教育施設としては幼稚園・保育所・認定こども園と様々な形態があるが、本市の未来を担う子どもたちに、豊かな教育環境を整え、就学につなげていくことが重要であると教育委員会・市長部局ともに考えており、来年4月には第1ステージの成果が出るため、続いて第2ステージも着実に推進していきたいと考えています。</p>
9	<p>今後の統合により、一つの小学校から複数の中学校へ分かれて進学することになるかもしれないが、阪南市を構成している元々の村が現在の校区割の母体であるということ踏まえたうえで、校区を考えていただきたい。</p>	<p>校区が変わることと人間関係の構築は密接に関係するということは十分認識しており、校区割については子どもたちや地域のことが、今後あり方を検討するにあたっての大きなテーマとなると考えています。</p>
10	<p>阪南市に戻ってきても小学校も中学校も母校がないという人が、今後増えるだろうが、地域とのつながりという観点に基づいて校区割を行えば、「帰ってくる場所」と言えるものが良い形でできるのではないかと。</p>	<p>統合について様々な思いがありつつも、本市で大きな混乱なく進めてこられたのは、教育委員会や市長部局の頑張り、そしてなにより子どもたちや教員、保護者の頑張り、地域の理解があったからこそです。そして、なぜまた整理統合計画に着手しなければいけないのかというと、20年先、30年先の子どもたちのために、市が所有する適正な施設数の維持や教育環境の整備などをおこなう必要があるから、将来学校でどんな教育をするべきか、ということ今、しっかりと議論したうえで、計画を策定しなければならないと考えています。</p>
11	<p>前回の整理統合計画を進めていくことができたのは、保護者が教育委員会や学校を信頼し、教育が良くなっていくという見通しがあったために協力してくれたおかげだと思ふ。市の財政難は承知しているが、あり方検討と並行して短期的な課題にも取り組み、教育が良くなったという成果が目に見える形で実感できるようにしてほしい。</p>	<p>本市が人口減少に向かう中、何をすることも財政論抜きに施策を進めることはできません。一方で財政論だけではだめなので、持続可能性があること、将来子どもたちがいきいきと活躍できるように育むことを目標に、部局を越えて一致団結し、連携しながら取り組んでいきたいと考えています。</p>

厚生文教常任委員会（令和3年10月29日開催）における意見及び考え方

番号	意見	考え方
12	あり方検討について、期間が3年超の時間が見込まれているが、なぜか。	検討すべき項目につきましては、検討委員会や市民の皆さんの声をしっかり聞きながら丁寧に検討を進めるため、行財政構造改革プランに位置づけされている短期スケジュールである、令和4年度から令和6年度の3年間で、それぐらいの時間を要すると考えています。
13	あり方検討委員会の委員構成は、どうなっていますか。	委員構成は、学識経験者、公募市民、行政職員、それと小中学校の校長先生、また小中学校のPTAの代表の方、それと自治会の方を考えています。

定例教育委員会議（令和3年11月19日開催）における意見及び考え方

番号	意見	考え方
14	あり方検討委員会議の第1回の開催はいつ頃を予定しているのか。	令和4年3月を予定しています。

厚生文教常任委員会（令和3年10月29日開催）における意見及び考え方

番号	意見	考え方
15	なし	なし